

令和7（2025）年度
札幌医科大学大学院医学研究科(博士課程)

学 生 募 集 要 項

(前期試験・後期試験)



Sapporo Medical University
Graduate School of Medicine

大学院を志すみなさま

学校教育法第99条には、「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与すること」と記載されております。したがって、大学院生は教育を受ける学生であることと同時に研究者として社会に貢献する機会を得ることになります。どの分野の学術研究でも大学院生が世界中で大きな役割を果たしております。

札幌医科大学が1950年に現在の場所に開学し70年以上が経過しました。大学院医学研究科は1951年に博士課程が、2008年には修士課程が設置され、これまでに多様な学歴や経歴を持った人材を受け入れ、幅広い医学・医療の研究や実践の分野に多くの卒業生を送り出してきました。そうした先輩達の活躍は、病気をもった方々の診療にとどまらず、医学研究、医学教育、医療・保健行政など幅広い分野に広がっており、それぞれの分野の歴史をつくってきました。

医療は絶え間なく進歩しており医師はそれを学ぶことを怠った瞬間に取り残されてしまいます。札幌医科大学医学部は大学・大学院在学学生だけではなく卒業生に対しても学習のためのサポートをし続けます。令和3年には10年がかりの新キャンパスが完成し、医学部生、大学院生、卒業生が力一杯勉強・研究をする器ができました。札幌医科大学は有意義な研究生生活を送るためのソフト、ハード面でのサポート体制も整備されております。あとはエネルギーにあふれた皆様を迎え、札幌医科大学が新しい時代に向けて発展出来ることを確信しております。

札幌医科大学大学院医学研究科長 齋藤 豪

大学院医学研究科

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

求める学生像

<博士課程>

医学研究科・博士課程では、将来、医学研究者となるべき人材として、次のような資質を持った人を求めます。

【知識・技能】

1. 知的好奇心、科学的探究心を持ち、高度な知識・技術の修得に励む人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

2. 創造性に富み、応用・発展への意欲を持つ人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

3. 高い倫理観を備え、医学の分野で活躍する意思を持つ人

4. 国際的な視野を持ち、社会や科学の問題にあたる気概のある人

入学までに学習しておくことが期待される内容

<博士課程>

(1) 専攻科目に関連する基礎医学、社会医学、臨床医学などの基礎的知識

(2) 専門性を高め、国際感覚を持って研究成果を発信するための語学力

(3) 研究課題の立案と実施に求められる論理的な思考力

(4) 研究結果を分析して意義づける判断力と表現力

(5) 幅広い視野と高い倫理観を持って意欲的に医学研究に取り組む姿勢

(6) 多様な研究者と協力しつつ、新たな分野を創造し開拓する姿勢

入学者選抜の基本方針

入学者に求める資質・能力について、下表に示す入学者選抜方法により評価・判定します。

※○及び◎は入学者選抜方法と学力の3要素との対応関係を示すものであり、配点の比重を示すものではありません。

<博士課程>

| 入学者選抜方法 | 知識・技能 | 思考力・判断力・ 表現力等の能力 | 主体性を持って 多様な人々と 協働して学ぶ態度 |
|------------------------|-------|---------------------|-------------------------------|
| 外国語試験 | ◎ | ○ | |
| 面接(口頭試問等含む) または筆記試験 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 単位取得状況がわかる証明書 | ◎ | ○ | |
| 志望理由書 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 研究計画書 ※ 該当する者のみ | ◎ | ◎ | |
| 研究活動歴 ※ 該当する者のみ | ◎ | ◎ | ○ |

目 次

| | | |
|------------|----------------------|-------|
| I | 学生募集要項 | 1~16 |
| 1 | 専攻と募集人員 | 1 |
| 2 | 出願資格 | 1 |
| 3 | 出願手続 | 2 |
| 4 | 外国人留学生の取扱い | 4 |
| 5 | 入学者選抜方法 | 4 |
| 6 | 試験日、試験科目及び場所 | 4 |
| 7 | 合格者の発表 | 5 |
| 8 | 入学手続 | 5 |
| 9 | 長期履修制度 | 5 |
| 10 | 授業料 | 6 |
| 11 | 過去の試験問題について | 6 |
| 12 | 個人情報の取り扱いについて | 6 |
| 13 | 出願書類及び入学検定料の留意事項について | 6 |
| 14 | 書類の提出及び問い合わせ先 | 6 |
| II | 博士課程の概要 | 7 |
| 1 | 目的 | 7 |
| 2 | 学生定員 | 7 |
| 3 | 修業年限 | 7 |
| 4 | 修了要件 | 7 |
| 5 | 学位 | 7 |
| 6 | 組織及び専攻分野の内容 | 7~16 |
| III | 専攻分野別研究内容等の紹介 | 17~77 |
| | 地域医療人間総合医学専攻 | |
| | 地域医療総合医学領域 | |
| | 総合診療医学 | 17 |
| | 医療統計・データ管理学 | 18 |
| | 環境保健予防医学 | 19 |
| | 公衆衛生学 | 20 |
| | 人間総合医療学領域 | |
| | リハビリテーション学 | 21 |
| | 法医学 | 22 |
| | 医療薬学 | 23 |
| | 時間感染症学 | 24 |
| | 医学領域知的財産学 | 25 |
| | 臨床遺伝学 | 26 |
| | 発生分化・加齢制御医学領域 | |
| | 消化器病腫瘍学 | 27 |
| | 呼吸機能制御医学 | 28 |
| | 呼吸器外科学 | 29 |
| | 臓器発生・再生医学 | 30 |
| | 神経再生医療学 | 31 |
| | 発達小児科学 | 32 |
| | 循環腎機能病態学 | 33 |
| | 心血管・腎・代謝病態学 | 34 |

| | | |
|-----------------|-------|----|
| 生体防御医学領域 | | |
| 感染防御・制御学 | | 35 |
| 侵襲制御医学 | | 36 |
| 生体危機管理学 | | 37 |
| 生体機能制御医学 | | 38 |
| 分子・器官制御医学専攻 | | |
| 臨床腫瘍医学領域 | | |
| がん薬物療法学 | | 39 |
| 応用血液腫瘍制御学 | | 40 |
| 放射線腫瘍学・放射線医学物理学 | | 41 |
| 緩和医療学 | | 43 |
| 外科腫瘍学・消化器外科治療学 | | 44 |
| 遺伝子医学領域 | | |
| ゲノム医科学 | | 45 |
| 分子医学 | | 46 |
| 分子細胞生物学 | | 47 |
| 分子腫瘍医学領域 | | |
| 腫瘍病理学 | | 48 |
| 皮膚腫瘍学 | | 49 |
| 腫瘍免疫学 | | 50 |
| 器官機能治療学領域 | | |
| 放射線診断学 | | 51 |
| 循環機能治療学 | | 52 |
| 整形外科学 | | 54 |
| 腎・尿路・生殖器治療学 | | 55 |
| 口腔機能治療学 | | 56 |
| 形態・体表機能再生学 | | 57 |
| 婦人生殖器・内分泌治療学 | | 58 |
| 臨床免疫学 | | 59 |
| 情報伝達制御医学専攻 | | |
| 神経科学領域 | | |
| 脳神経機能学 | | 60 |
| 加齢制御薬理学 | | 61 |
| 神経・筋機能病態学 | | 62 |
| 精神機能病態学 | | 63 |
| 中枢神経機能治療学 | | 65 |
| 視覚機能制御医学 | | 66 |
| 頭頸部腫瘍学 | | 67 |
| 生体機能制御学領域 | | |
| 細胞機能情報学 | | 68 |
| 分子医化学 | | 69 |
| 応用分子生物学 | | 70 |
| 臨床病態学 | | 71 |
| 免疫制御医学 | | 72 |
| 分子細胞機能学 | | 73 |
| 生体構造情報学領域 | | |
| 分子病態生物学 | | 74 |
| 生体分子形態学 | | 75 |
| 生体機能構造学 | | 76 |
| 分子細胞科学 | | 77 |

IV 出願関係書類様式